

千早赤阪村と御所市（奈良県）との境に位置する「大和葛城山」、標高 959m ほどの山頂付近で…

「アトリ」の小さな群れに出会いました。

10 羽弱くらいが草原に降りたり、木の枝に止まったりしていました。

これは、群れで地上に舞い降りて草木の種子を採食し、一斉に飛び立ってはまた別の場所に降り立つ、という行動を繰り返していたのでしょね。

今回はあいにく5倍ズームのカメラしか持っていませんでしたので、警戒させないように、できるだけ近づいての撮影を試みました。

さて、この「アトリ」、全長は 160mm くらいと、スズメよりやや大きい種です。

主に大陸（シベリア方面）の亜寒帯針葉樹林で繁殖し、我が国へは「冬鳥」として 10 月頃に海を渡ってやってくるのです。

渡来初期のこの時期は、亜高山帯の針葉樹林で姿を見ることが多いのですが、徐々に山を下って行って、冬場には平地の農耕地や大きな樹木の茂る公園などでも餌を探しています。

ねぐらは主に山地の樹林で、夕暮れに多くの群れが集まって大群を形成することもあります。

「アトリ」という名前の由来は明確ではありませんが、「古事記」や「日本書紀」には空を覆い尽くすほどのアトリが飛んでいた、というような記述もあります。

このことから、「集団の鳥」⇒「集鳥（あつとり）」⇒「あとり」と呼ばれるようになった、という説が有力みたいです。

#### ◆写真①～⑥： アトリ

◇小さな群れが地上の草原から樹上へと移動したところを撮影しました。

◇全体的に羽が淡い色調ですので、この個体は雌だと思います。

#### ◆写真⑦・⑧： アキアカネ

◇アキアカネは、秋雨前線の通過を機に群れをなして山を降り、平地や丘陵地などの低標高地へとへと移動すると言われていています。その後、雌雄が連結したまま飛びまわり、稲刈りの終わった田んぼの水溜りなどの産卵場所を探します。

◇この付近でも、先日前線が通過しましたので、既に山頂付近にとどまっていた個体を見ることはほとんどなくなりましたが、まだほんの少し、“居残り組”がいるようです。

◇⑥は雄、⑦は雌でしょうね。この日見つけたのは、これらわずか数個体だけでした。

◇ちなみに、この種の雌は成熟してもあまり赤くならない個体が多いのですが、⑦の個体のように腹部背面が赤くなるものも少なくはないようです。





























